

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091400202		
法人名	社会福祉法人 新		
事業所名	グループホーム むろみ		
所在地	福岡市早良区室見5丁目10-34		
自己評価作成日	令和元年5月1日	評価結果確定日	令和1年10月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP:http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	令和1年5月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

地下鉄室見駅から徒歩3分と近く、交通アクセスが良いことからお気軽にお立ち寄りできます。また、閑静な住宅街の一角で、室見川も近く、お散歩の際には利用者様に身近に四季を感じていただける恵まれた環境にあります。当法人ではかねてから特別養護老人ホームを運営しており、認知症をはじめとする介護に関する豊富な知識や技術を活かしたサービスを提供いたしております。また、協力医療機関との連携により手厚い医療が受けられることも利用者様やご家族に喜ばれております。
当法人は、平成15年5月に開設した特別養護老人ホームの時代から「育ててくれた地域への恩返し」をモットーに運営をしてまいりました。地域密着型サービスである当グループホームでは、住み慣れた地域で安心して生活ができて、どなたでも気軽に立ち寄ることができる場所やサービスの提供を通して、認知症サポーターの資格を生かし、地域の方々やご家族、子供へ認知症の理解を深めていただけるよう、積極的に講座を開催し、更なる「地域への

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームむろみ」は平成26年に開設され、1階に小規模多機能、2階、3階に2ユニットからなる複合型施設である。地下鉄室見駅から徒歩3分という交通アクセスが良く、閑静な住宅街の一角にあり、遊歩道のある室見川まで100mという好立地にある。法人は地域に施設がなく、地域の方に恩返しをと言う気持ちからスタートし、平成15年に特別養護老人ホーム「あおぞら」を設立。母体法人病院との連携により、手厚い医療が受けられ利用者、家族に喜ばれている。こども会と連携を取っており、ハロウィンにはこども達の訪問があり、一緒に写真を撮ったり、お菓子のプレゼントを行う。今年は室見小学校で行われる夏まつりに参加する。室見公民館で行われる敬老会に、一昨年から利用者と一緒に参加している。校区からソフトバレー、ソフトバドミントンへの誘いがあり、職員が参加し、地域の方とのふれあいを大事にしている。住み慣れた地域で安心して生活ができ、地域に愛し愛されることに力を注ぎ、今後も益々の発展が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設し5年目を迎え、日々実施しやすい理念の作成を検討していたが、スタッフより現在の理念を大切にしていき、更に地域に愛し、愛されるよう地域との交流を増やす為に、公民館であるサロンなどに参加している。笑顔で接することや利用者に四季を感じていただけるように外出もしている。	開設時に職員と一緒にグループホーム独自の理念を作成した。変更も検討したが職員の馴染みもあり、現在の理念で行こうとの結果になった。事業所入口、各フロア、ロッカーに掲示し、理念に立ち返ったケアを意識している。更に地域に愛し愛されるよう、地域との交流を増やすため公民館であるサロンなどに参加している。フロア会議時に話し合いの時間をもち、理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的ではないが、地域で行われる行事には積極的に参加するようにしており、施設内で行われる年に2回の避難訓練なども地域の方に参加していただいて実施している。夏祭りや餅つき会、敬老会、子供会のハロウィンイベントに参加している。入所者で合唱団を結成しており、地域のイベントに参加させていただき、お披露目する予定である。	法人の施設「あおぞら」で行われる夏祭りには、地域の方、家族の参加もある。利用者で合唱団を結成し、夏祭りで披露する予定で練習に励んでいる。公民館の敬老会には利用者と一緒に参加し、認知症サポートの講座を民生委員さんに向けて行った事もある。近隣の公園の花壇に種、苗を植え付け地域活動にも取り組んでいる。事業所1階にある相談室を、こども会の話し合いや、地域の方々の話し合いの場として使用してもらっている。地域情報は自治会長の来訪時などに伺っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々が、話し合いの場として、施設1Fにある相談室を利用されることがあり、その際に、簡単な認知症サポーター養成講座を行い、認知症の人の理解を深めていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では2ヶ月分の業務実績と業務予定を報告し、これまでの取り組みの中から事例を挙げて意見を伺い、評価を行っている。他事業所の運営推進会議に昨年は3度、今年は2度参加し、情報交換行なっている。	併設の小規模と合同で1階の小規模多機能で行われている。地域の広報委員、地域包括、他小規模多機能、グループホームの管理者、利用者家族1名の参加がある。家族には全員に案内をしている。他事業所の運営推進会議にも参加し、情報交換を行っている。議事録は玄関に閲覧用ファイルを設置している。今月末には地域の方、民生委員、団地の方などへの声かけを行う予定である。	家族の参加を促す取り組みとして、開催曜日を変更したり、行事との同日開催をしたりと、試みてはどうか。議事録も閲覧のみでは伝わりにくいので、「むろみ便り」のなかに、現在、取り組んでいることなどのポイントを書かれるようにしてみたらどうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の場を利用して事業所の実情を知っていただき、意見を伺っている。また、その都度分からないことがあれば連絡をして密にコミュニケーションをとっている。	運営推進会議には地域包括からの参加があり、事業所の実情を知っていただき、意見を伺っている。入居に関しては、病院、居宅からの紹介が多い。市町村へは案内は出している。参加はないが、生活保護の方の受け入れを、今後検討しており、書類の相談などを行っている。その都度分からないことがある時は連絡をして密にコミュニケーションを取っている。更新申請の書類は管理者が郵送している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	7月と3月に身体拘束の廃止に関する職員への内部研修を行っている。現在のところ、身体拘束を行っている利用者はいない。	日中の玄関施錠もなく、出入りも自由にできるが、18:00以降は玄関施錠を行っている。夜間のみ、必要な方にはベッドサイドの床センサー、超音波感知などを設置しているが、今までも身体拘束行為はなかった。ホーム長が内部研修を行っている。6月には管理者が外部研修を受け、内部研修に落とすようにする。言葉による抑制のなど気が付いた時は、その場で言葉使いに注意をしている。	

R1.5自己・外部評価表(GHむろみ)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払っている。	6月と2月に高齢者の人権擁護に関する職員への内部研修を行っており、虐待防止に関しては、外部研修に参加している。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	6月に高齢者の人権擁護に関する職員への内部研修を行っている。現在のところ、該当者はいない。	6月には人権擁護の内部研修をホーム長が行っており、職員も周知はしている。入居前より成年後見制度を利用していた方がいたが、現在はいない。3階のユニットに今後使用する可能性の方が一人いる。現在関係者に後見人をされていた方がおり、相談できる体制は整えてある。契約時には家族に制度説明の資料を基にして説明を行っている。玄関にパンフレットは置いていない。	成年後見制度(詳しく知っていただくため)絵図入りのわかりやすいパンフレットが行政などにあるので、玄関の置かれるようにしたらどうだろうか。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際はあらかじめ時間に余裕を持って対応しており、十分な説明をして納得を得ている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会(食事会)の検討を行い、ご家族への聞き取り行うも、全家族共に日程が合わず、開催できていない状態である。現在も、ご家族の面会は多く、面会時に家族の要望を聞き取るようにしている。また、運営推進会議への参加を促すも、集まりが悪い状況ではあるが、参加された場合は、意見を聴取して運営に反映している。	今年9月に家族会を行う事を検討している。家族の行事への参加も多く、一昨年、昨年と動物園に行くなど、交流を深められた。家族の訪問は週2~3回される方もあり、少なくとも月1回は訪問がある。訪問時に家族の要望を聞き、運営に反映させている。電話連絡は日頃から密にしている。遠方の方などには電話や3か月ごとに発送の「むろみだより」で担当職員から個別の状況を伝えている。毎月の請求書内にも担当者が一筆を書き、状況を伝えている。意見箱にも利用者家族の意見が入っており、運営に反映させている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月フロア会議を開催し、職員の意見を聴取する機会を設けている。定期的に個別の面談も行っている。	月1回2ユニット合同でフロア会議を行い、意見、提案を行っている。じょくそうができやすくなっているため、エアーマットの提案をしたところ、管理者がすぐに対応してくれた。新しい薬に対する利用者の不安にも、すぐに問い合わせ、解決してくれた。定期的に個別の面談もあり、何かある時は随時管理者と個別に相談することができる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月フロア会議を開催し、職員の意見を聴取する機会を設けている。定期的に個別の面談も行っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	面接の際は、年齢や性別に関係なく平等に判断している。また、働いている職員に対しても面談を行い、長所や短所を見極めたアドバイスをおくるなどの配慮をしている。	年齢層は20~60歳代まで幅広く、男女比もバランスが取れている。各ユニットに休憩室があり、一時間休みがある。研修案内は管理者を通じて受けとり、指示で参加したり、希望で行くこともでき、機会も多く行きやすい。認知症初任者研修、接遇研修などを受け内部伝達を行った。実務者研修、計画作成担当者研修など、資格取得支援もしてもらえ、自己研鑽に励んでいる。	

R1.5自己・外部評価表(GHむろみ)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	6月と2月に高齢者の人権擁護に関する職員への内部研修を行っている。現在のところ、該当者はいない。	6月と2月に「身体拘束の排除について」①身体拘束とは②高齢者虐待のとらえかたのQ&A③高齢者の人権擁護について、「権利擁護とは(アドボカシーの視点)」、「ターミナルケアの基本理念」等の内部研修を行っている。外部研修に行く予定があり、職員にあった研修を選び、希望があれば行ってもらおう。外部講師もお願いしようと思っている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画に沿って内部研修を行い、その都度、外部研修への参加も促している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会「いとの会」において行われている交流会に参加している。また、同法人内で行われる行事や交流会に参加して交流を深めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居した際にグループホームでの生活に対する要望や質問を伺っている。また、馴染みの関係を築けるように毎日コミュニケーションをとっている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の前に面談を行っており、その際に要望や質問を伺っている。また、契約の際にも再度確認するようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントをとることでニーズを見極めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「お互いが自然体で接し合える」という理念をもとに関係作りに努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	こまめな連絡を行い、病院受診での外出の際や行事の際などご家族が関わることができるときには可能な限り参加していただけるように働きかけている。		

R1.5自己・外部評価表(GHむろみ)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居に関する説明を行う際に、これまでの生活環境により近づけることができるように自宅にあるものを居室に持ってきてもらえるように説明を行っている。	入居前から行っていた馴染みのある食堂に、他の利用者数名と食事に行った。半年に1回程度食堂の奥さんが訪問してくれる。事業所の隣に住む方の訪問もある。月1回美容師が訪問されている利用者もおり、これまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の自由を尊重しつつも、レクリエーションや行事への参加は全員に声掛けするようにしている。また、利用者同士でのコミュニケーションを円滑に取れるように職員が間に入って会話するようにしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	取り組む準備はできているが、現在のところ実績はない。退所された方の家族から、別の親族の方の利用相談を受け、現在入居されている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所した際にアセスメントをとり、意向の確認をしている。	入居当初のフェースシートやアセスメントは管理者、ケアマネジャーが行っており、病院で行う事が多い。事業所に来てもらう事もある。本人が気持ちをあらかずることが難しい時は、本人の様子を見たり、家族から聞き取りを行う。聞き取った内容はカンファレンスで職員とともに共有し、本人の様子を見て気が付いた時は随時個人記録に書き込んでいく。朝の申し送り、フロア会議時に職員全員で共有している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や本人から話を聞いて生活歴の把握に努めている。また、医療機関や介護施設からの情報提供からも把握している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日観察し個人記録をつけることで一日の過ごし方や心身状態などの現状を把握している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の説明の際に、ご家族や本人からの質問や意見を伺い、本人の状態に変化があった際は家族に連絡し、その都度報告している。また、おおむね3ヶ月に1度モニタリングを実施して介護計画に反映させるようにしている。	担当者は1~2名受け持ち、担当者と管理者がモニタリングを一緒に行う。プラン目標ごとの日々のモニタリングチェックシートがあり、全員がプラン内容を理解し、日々の実行を記録している。個人記録を見ながら介護計画に落とし込んでいき、計画作成はケアマネジャーが行う。本人の状態に変化があった際は家族に連絡しその都度報告をしている。担当者会議も医師、訪問歯科、看護師、薬剤師など専門家に幅広い意見を頂いている。	

R1.5自己・外部評価表(GHむろみ)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個人記録をもとにフロア会議でモニタリングを行い、その際にケアの方法についても話し合っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	福岡市外に住まわれていた方でも住所を実施の住所に変更して入居していただけるようアドバイスをし、実施に入居していただいた。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の広報誌の情報をもとに地域資源の活用を検討しているが、現在のところ、これといった実績はない。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の契約の際に、かかりつけ医を確認しており、急変が起きた際の対応についても説明をして納得を得ている。また、通院介助や往診にて利用者の健康管理をしている。	かかりつけ医の利用者は1名おり家族の支援で行われている。家族の対応できない時は事業所で支援を行っている。急変時の対応については説明し納得を得ている。提携医である母体病院の院長の往診が、介護度により月1~2回ある。歯科の往診は毎週土曜日にメンテナンスを行い、火曜日が治療日である。適切な医療を受けられるように支援を行っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定時の申し送りの際に看護師への報告を行っており、異常が見られた際も適宜報告を行い、適切に対応している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合には、適宜、医師に状態を尋ねることで現状を把握している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の契約の際に、看取り介護についての説明を行い意向の確認を行っているが、入所時には対象の方がおられないことから、実際にターミナルの状態になられた時に再度意向を確認する旨を伝えている。実績あり。	入居の契約の際に、看取り介護についての説明を行い、意向の確認を行っている。今まで看取りは十数名おられ、今年の5月にも看取りを行った。緊急時は看護師、管理者に連絡するようにしている。提携医である母体病院も24時間対応している。ターミナルケアの研修も看護師から、管理者が受け内部研修に落とし込んでいる。職員も経験を積んで看取りにも対応できるようになった。	

R1.5自己・外部評価表(GHむろみ)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	6月と11月に事故発生時の研修を行っている。また、10月には応急救護の研修を法人内で行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	5月と12月に地域の住民と共に避難訓練を実施し、施設で火災や災害が起こった時の対応を確認した。	併設の小規模多機能と合同で年2回防災訓練を行う。1回は夜間想定、一回は消防署の立ち会いがあり、水消火器を使用。水害の避難訓練も行う。法人の特養で研修を受けたり、小規模多機能でAEDや救急救命訓練も受けた。地域の防災の話し合いが、公民館で行われ、地域の広報委員から声かけがあり、管理者が出席した。防災マニュアル、ハザードマップを作成した。避難場所が事業所から遠いので緊急な時は3階に避難するようにしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴染みの関係を築けるように方言を交えながらも人格や誇りを傷つけないように配慮した声掛けを行っている。	相手を尊重するなかでも丁寧になりすぎないように、名前でも呼ぶこともあり、その時なりの対応をしている。自尊心を傷つけないような声かけに心がけ、職員への注意もその都度行うようにし、声かけの仕方を工夫するようにしている。接遇マナーなどの研修はフロア会議時に行なっている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	家事手伝いや、レクリエーションや体操などの活動において強制的ではなく自己決定できるような形でお誘いしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	メリハリのある生活や生活リズムを大切にしながらも、基本的には自由に過ごしていただいている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や臥床時の更衣の際は、可能な限りご自身で衣類を選んでいただいている。また、外出の際は、お化粧をして外出着で出かけている。好みに合わせてマニキュアを塗っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	適宜、食事レクリエーションを行っている。その際、一緒に準備をして料理をしている。日々の食事に関しては、主に片づけを一緒にしていただいている。	3食とも業者による調理済みの配食があり、盛り付け、炊飯のみ事業所内で行う。普通食、刻み食、減塩食などの対応がある。朝食はロールパンとバター、ジャム、スープなどの時もある。利用者には食器拭き、下膳などを行ってもらっている。職員と一緒にたこ焼き、ホットケーキを作ったり、ホットプレートで一緒に焼き肉を行った。小規模多機能ではそうめん流し行ったり、事業所のフロア内では「スイカ割」を行った。外出レクで外に食べに行くこともある。	

R1.5自己・外部評価表(GHむろみ)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師と連携し、食事摂取量やカロリーの調整を行っている。また、可能な限り、自力摂取出来るように必要な器具は、その都度準備している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア内の状態観察は、口腔ケアの際に毎回行っている。その他ほぼ全員が居宅療養管理指導にて毎週1回歯科衛生士が口腔ケアを行い、口腔内の状態を確認している。月に1回、歯科衛生士さんによる、口腔機能維持についての研修を介護職員に行い、技術向上に努めている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	モニタリングの際に排泄の場所や物品の検討をして、可能な限り自分の力で排泄が出来るように支援している。	ユニット毎に全員分を24時間管理できる排泄チェック表があり、管理している。排泄後のおむつから使用前のおむつの重さを引き、排泄量がわかるようにしている。パッドの使用が必要以上に多かった時などは、フロア内でのカンファレンスや申し送り改善点を話し合い、逐次提案につなげている。各自の熱計表もあり、一日の身体状況を把握し、可能な限り自分の力で排泄が出来るよう支援をしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便パターンを把握する為に排泄チェック表に記録を残しており、便秘傾向にある方は運動を促し下剤でも調整を行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回の入浴をする機会を設けており、現在のところ利用者の希望は聞かれていない為、こちらの都合で行っている。	週2回、月曜日から土曜日の間で3人程度、13:00~15:00の間に入浴を行っている。個浴であり一回ずつ湯を変える。ボディシャンプーなどは好みの物を使用しており、散歩がてら近隣の薬局で購入する事もある。入浴拒否のある時は、時間を置いたり、日を変えたり、職員を変えたりしており、タイミングに合わせて入浴を楽しめるように支援をしている。皮膚疾患がある時は看護師に見てもらおう。必要がある時は足浴を行っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	認知症状で就寝のタイミングが分からない方以外は、自分のタイミングで就寝していただいている。また、安心して眠っていただけるように自宅での環境に近い畳を使用していただいている方もおられる。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師と連携し、内容に変更があった場合や疑問に思ったことなどは随時確認をとっている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	室見川が近いことから、天気のいい日は散歩に出かけて四季を感じていただき、気分転換をしていただいている。利用者の趣味を活かせるレクリエーションや毎月食レクリエーションを企画し、取り組んでいる。		

R1.5自己・外部評価表(GHむろみ)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	「花を見に行きたい」「馴染みの定食屋に行きたい」、「馴染みスーパーに買い物に行きたい」などの希望があり、希望を叶えられるよう支援している。通常、外出したいとの希望があった場合は、室見川や近所の公園に外出している。	通常の外出は、遊歩道のある室見川や近隣の公園に散歩に行ったり、スーパーに買い物などに行く。初詣、十日えびす、桜見、どんたく、コスモス、紅葉見学など季節の折々に四季や、自然を感じてもらい、みんなで喜びを分かち合うよう、なるべく外出するようにしている。家族と一緒に「くるくる寿司」で誕生会を行ったり、木ノ葉モール、マリナタウンなどに家族と一緒に行かれる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	していない。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状等の手紙のやり取りをされてある方がおられ、施設に手紙が届いた場合は、利用者へお渡しし、利用者が手紙を書かれた後は、一緒に郵便局へ手紙を持って行くなど、対応している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を第一に、利用者の方が気持ちよく過ごしていただけるように毎日清掃しており、壁の飾りを工夫することで季節感を感じていただけるよう配慮する。	各ユニットは花の名前が付けられ、フロアはゆったりと広々とし、明るく、清潔感がある。利用者と一緒に作った飾り物が壁に飾られ、季節感にあふれている。テーブルの上に物が置かれていると落ち着かない方もおり、テーブルの上には何も置かないようにしている。浴槽は三方向介助できる配置で、安心して入浴できる。各ユニットのキッチンフロア全体が見渡せる位置にあり、広いフロアではスイカ割を行った。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	6人がけのテーブルを2卓と3人がけのソファを配置しており、日々の様子を観察して気の合う方同士に座っていただけるよう配慮している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の契約の際に思い思いの物を持っていていただける旨を説明しており、実際に様々なものを持ってきていただいている。	室内も広く上部には棚があり、部屋の片づけが効率よくできている。ベッド、タンス、カーテン、エアコン等が取り付けられている。筆筒、いす、テレビなど今まで使用していた愛着のある物を持参している。夫婦、家族の笑顔にあふれた写真が飾られ、楽しい時が感じられた。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分かりやすいように張り紙をしたり、利用者の動線に配慮して家具を配置している。		